

O・R様

年齢 66歳
性別 女性
職業 主婦
やりたい事 人の役に立ちたい
既往歴 非還納性腹壁癒痕ヘルニアによる反復製腸閉塞
疾患名 右腎癌 終末期
医療処置 麻薬管理及び緩和ケア。現在は行っていないが、膀胱留置カテーテル管理、中心静脈栄養管理、CVポート管理をしていた。



ケア内容

亡夫の全遺骨を手元供養されていたため、そのまま受け入れる。居室内での愛猫の受け入れを検討していたが、その矢先に亡くなってしまう。ご本人は『完全に一人になってしまった』と悲嘆し、不安からケアマネージャーや金銭委託業者へ、深夜に及んで電話するようになった。

身体面のケアとグリーフケアをしながら、ご本人が動物や植物の世話をしたりすることで、命の儚さや尊さを感じて、『誰かの、又は何かの役に立ちたい』という思いに変化した。トマトの水やりからスタートしてメダカ・金魚のエサやりを担い、最近は少額ではあるが対価を得て、食堂のテーブルや床の拭き掃除をしている。

その後、ケアマネージャーや金銭委託業者への電話回数は確実に減少した。病状は徐々に進行し、鎮痛剤の使用量も増えているが1日1日を大切に生活しており、生きがいに繋がっていると感じる。

85,055円

(訪問介護・訪問看護・デイサービス等の自己負担なし)



入居経緯

夫と2人暮らしだったが、夫が令和5年1月に肺癌と誤嚥性肺炎で救急搬送され、そのまま他界。以後一人暮らしで身寄りがない状況で、家族とは疎遠。

